

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 登別市ふるさと大使事業
-------------------	--------------------------

区分	番号	名 称						
章	6	担いあうまちづくり						
節	2	交流によるまちづくりの推進						
施策	1	国内における交流の場と機会の拡大						
小分類	1	国内の様々な地域との交流の推進						
主要な施策	3	札幌圏・首都圏における交流拠点の整備						
事務事業番号	002	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <td style="background-color: #f2f2f2;">事務事業コード</td> <td>62113002</td> <td style="background-color: #f2f2f2;">事業開始年度</td> <td>平成 4 年度</td> <td style="background-color: #f2f2f2;">事業終了年度</td> <td>平成 - 年度</td> </tr> </table>	事務事業コード	62113002	事業開始年度	平成 4 年度	事業終了年度	平成 - 年度
事務事業コード	62113002	事業開始年度	平成 4 年度	事業終了年度	平成 - 年度			

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	ふるさと大使関係経費
------	------	------------	------------

部 名	総務部	グループ名	政策推進室企画 G
-----	-----	-------	-----------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #ffffcc;">（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> <p>登別市の観光施設や各種イベント等、市の話題をふるさと大使を通じ、様々な機会に宣伝することにより、登別市の発展に寄与することを目的とする。</p>
手段（事業の内容・活動）	<p style="background-color: #ffffcc;">（目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください）</p> <p>登別市内に出先のある企業関係者及び首都圏等の企業勤務者、登別市にゆかりのある官公庁勤務者及び著名人、その他特に市長が必要と認めた人に登別市ふるさと大使（通称：のぼりべつ鬼大使）を委嘱する。 平成 4 年の制度開始時に 25 名を任命。近年の任命状況は、平成 20 年度 1 名、平成 21 年度 2 名、平成 22 年度 4 名となっている。 大使には、委嘱状の交付、PR カード（名刺）及び観光パンフレット等を提供し、市の PR 等の協力をいただく。 【大使の委嘱状況】 平成 22 年度委嘱者数 4 名 （日本人 2 名 / 外国人 2 名） 平成 22 年度末現在累積委嘱者数 57 名 （日本人 33 名 / 外国人 24 名）</p>
成果	<p style="background-color: #ffffcc;">（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> <p>大使に、観光パンフレット、市広報紙など、市の情報を提供し、さまざまな機会に宣伝していただくことにより、登別市の発展に資する。 また、大使からふるさと納税の協力が得られている。</p>
根拠法令等	<p style="background-color: #ffffcc;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p> <p>登別市ふるさと大使設置要綱</p>

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	ふるさと大使受命者数（単年度）	人	目標値	1	1	1	1	1
			実績値	4	/	/	/	/
	ふるさと大使総数	人	目標値	54	58	59	60	61
			実績値	57	/	/	/	/

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	119	107	19	49	49	117
合 計				119	107	19	49	49	117
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	166	170			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		166	170			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ ふるさと大使による観光やイベントなどの宣伝は、市の発展に寄与することから、市が事業主体となることは妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ ふるさと大使がPRカードやパンフレットを活用し、機会あるごとに市の宣伝をすることにより、本事業の成果があがっている。 また、ふるさと大使よりふるさと納税の協力も得られている。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ ふるさと大使による市のPRをより実りのあるものにするため、市の情報を適宜提供することにより、成果の向上が見込めるものとする。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 事業実施に係る必要最小限の経費を計上しているため、コスト削減は難しい。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	ふるさと大使の活動の中で登別市の話題を宣伝してもらうことは、市にとって情報発信を行う一つ的手段として有効であることから、ふるさと大使に対する定期的な情報提供に努めるとともに、PRカードの積極的な活用を促すなど、取り組みを継続していく。
-----------	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力で推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）